






ヤマウホールディングス株式会社
2026年3月期 決算説明資料

2026年5月8日





ヤマウホールディングスのパーパス（存在意義）

インフラ整備の総合ソリューションパートナー として、
サステナブルで安心・安全な社会の実現に貢献する



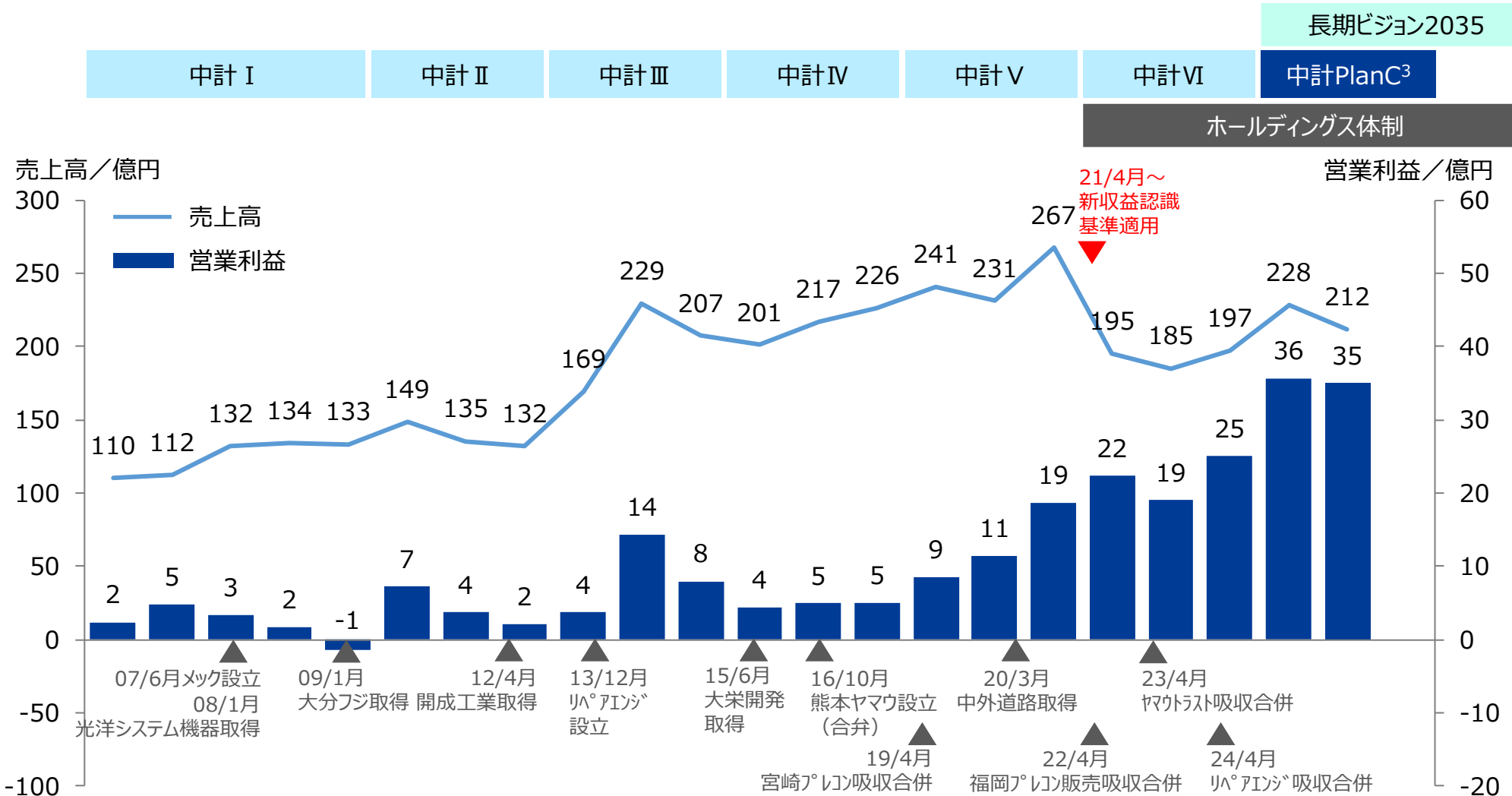
1. 決算概要

2. 中期経営計画の進捗状況



連結業績の長期推移

- ▶ 当社の連結業績は、M&Aによる事業領域の拡大と相次ぐ災害による復興・復旧特需等を背景に、成長を遂げて参りました。
- ▶ 近年は、インフラ整備工事への対応や、高騰する原材料費の販売価格への転嫁に注力し、収益を確保しております。



▶ 2026年3月期の業績は、売上高21,243百万円（前年比▲7.0%）、営業利益3,544百万円（前年比▲0.6%）の減収減益となりました。

売上高：減収

21,243百万円

対前年比実績：▲7.0%

減収額：▲1,593百万円

営業利益：減益

3,544百万円

対前年比実績：▲0.6%

減益額：▲21百万円

親会社に帰属する当期純利益：減益

2,212百万円

対前年比実績：▲8.1%

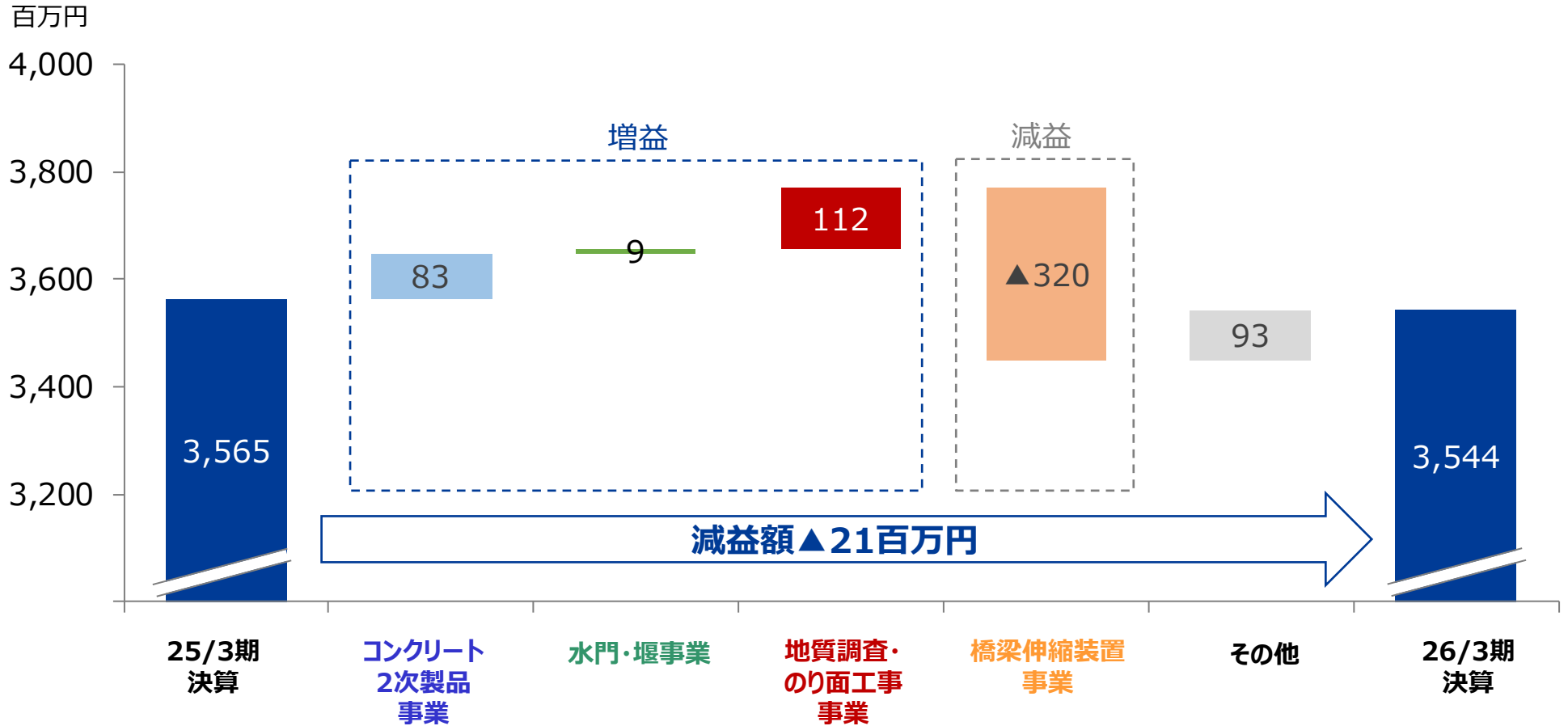
減益額：▲196百万円

業績概要

百万円	25/3期 決算	26/3期 決算	増減額	増減率
売上高	22,837	21,243	▲ 1,593	▲ 7.0%
売上原価	13,820	12,595	▲ 1,225	▲ 8.9%
売上総利益	9,016	8,648	▲ 368	▲ 4.1%
売上総利益率	39.5%	40.7%		1.23ppt
販売費及び一般管理費	5,451	5,104	▲ 347	▲ 6.4%
営業利益	3,565	3,544	▲ 21	▲ 0.6%
営業利益率	15.6%	16.7%		1.07ppt
親会社に帰属する当期純利益	2,408	2,212	▲ 196	▲ 8.1%

連結営業利益増減要因（セグメント利益）

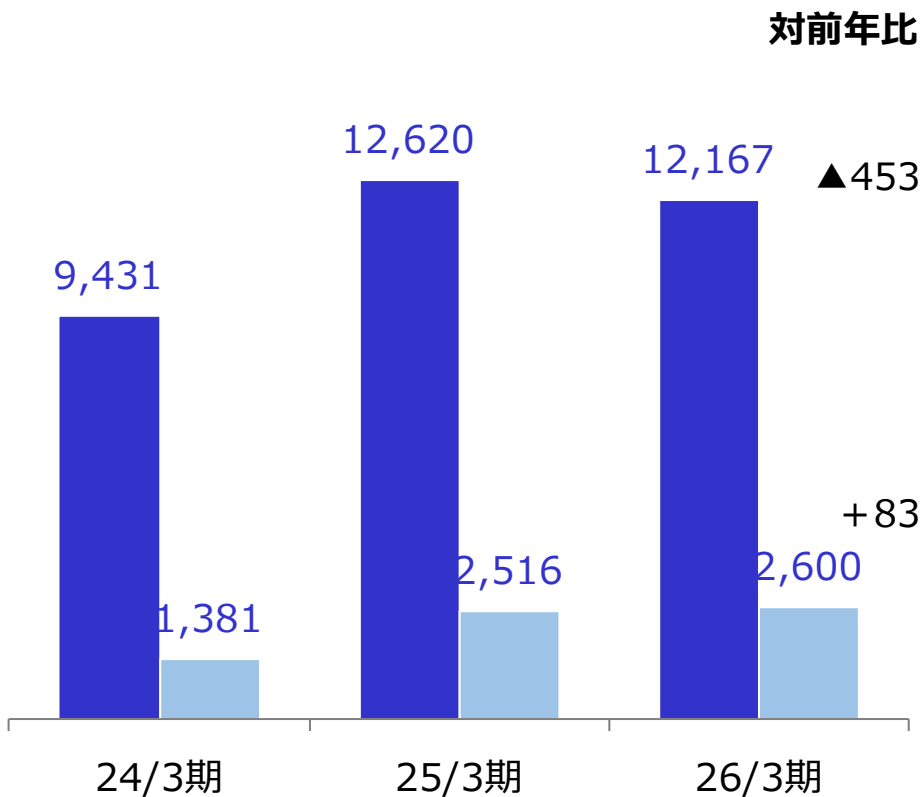
▶ セグメント利益は、**コンクリート2次製品事業**、**水門・堰事業**、**地質調査・のり面工事業**で増益でしたが、**橋梁伸縮装置事業**、**その他**で減益となり、連結営業利益は**▲21百万円の減益**となりました。



- ▶ コンクリート2次製品事業は、売上高12,617百万円（前年比▲453百万円）、セグメント利益2,600百万円（前期比+83百万円）の減収増益となりました。

百万円

- 売上高
- セグメント利益



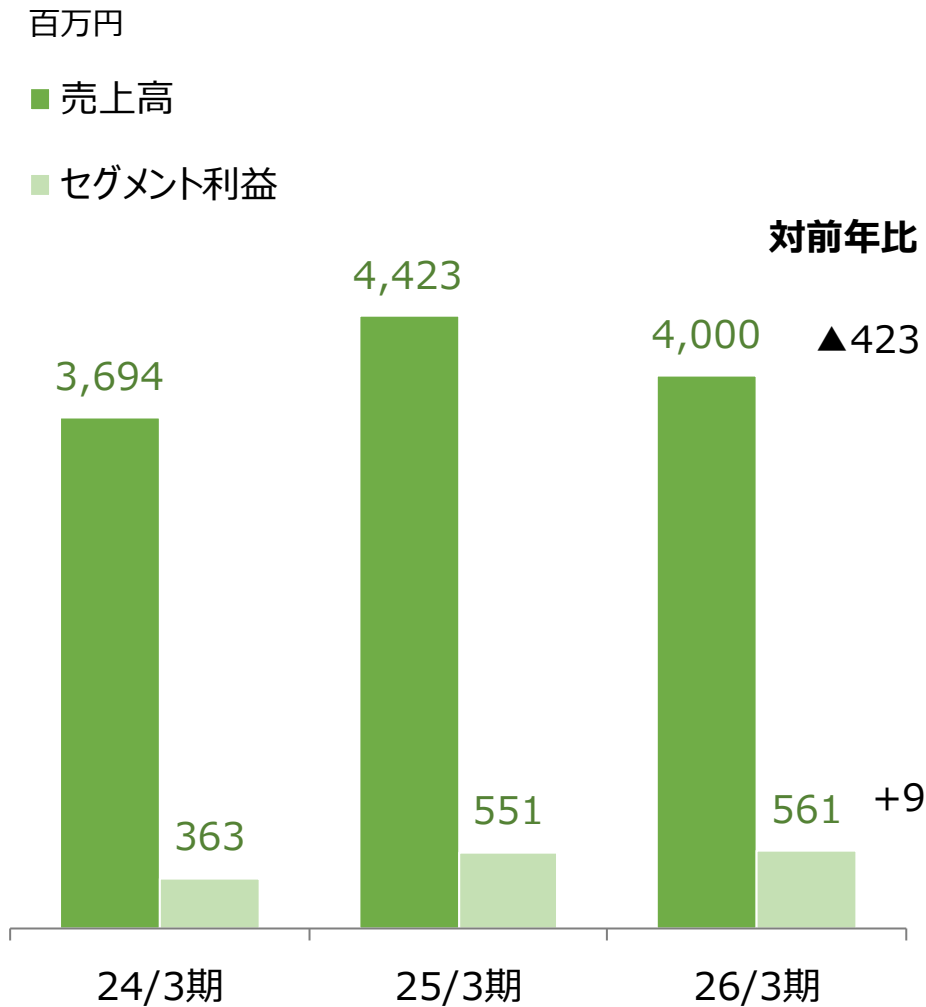
■ 増減要因

- 受注減少により売上高は前期比減収となりましたが、高騰する資材、原材料、物流費等の販売価格への転嫁、製造原価低減及び一般管理費の削減に取り組み、増益となりました。



地下調整池築造工事（アクアポンドS型）

▶ 水門・堰事業は、売上高4,000百万円（前年比▲423百万円）、セグメント利益561百万円（前期比+9百万円）の減収増益となりました。



■ 増減要因

- 2025年3月期末の繰越受注残が、2024年3月末比で減少したため売上高は前期比減収となりましたが、大型案件の受注件数が増加したことで効率的な製造ができたこと、有資格者の工事現場への効率的な配置を実施できたこと等によりセグメント利益は微増となりました。



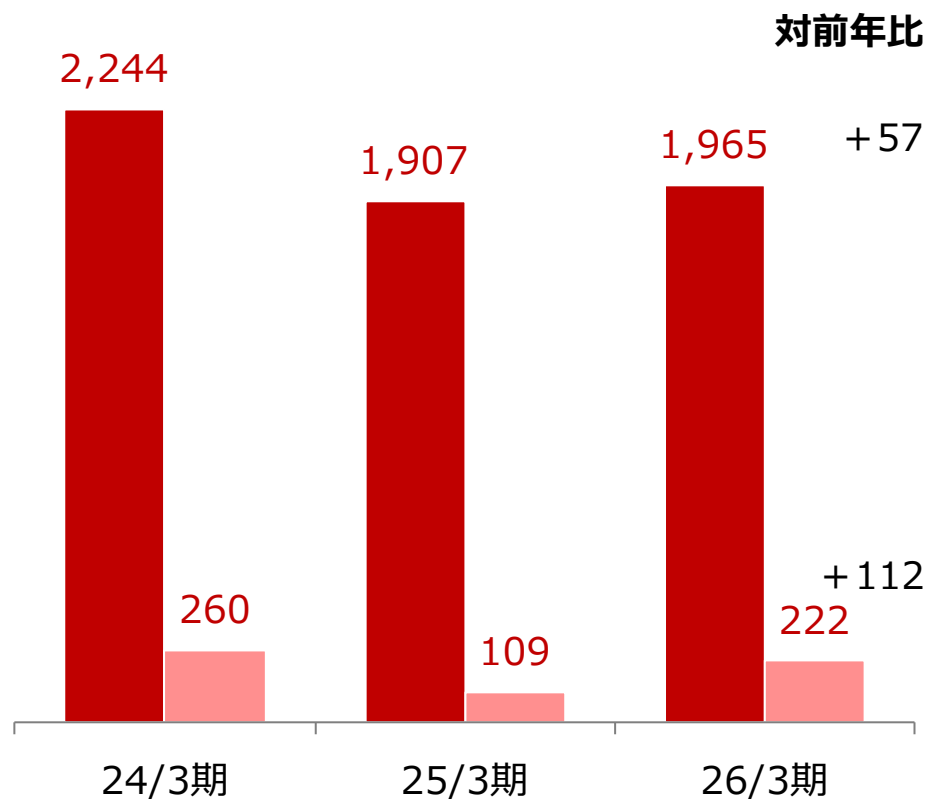
スライドゲート

- ▶ 地質調査・のり面工事業は、売上高1,965百万円（前年比+57百万円）、セグメント利益222百万円（前期比+112百万円）の増収増益となりました。

百万円

■ 売上高

■ セグメント利益



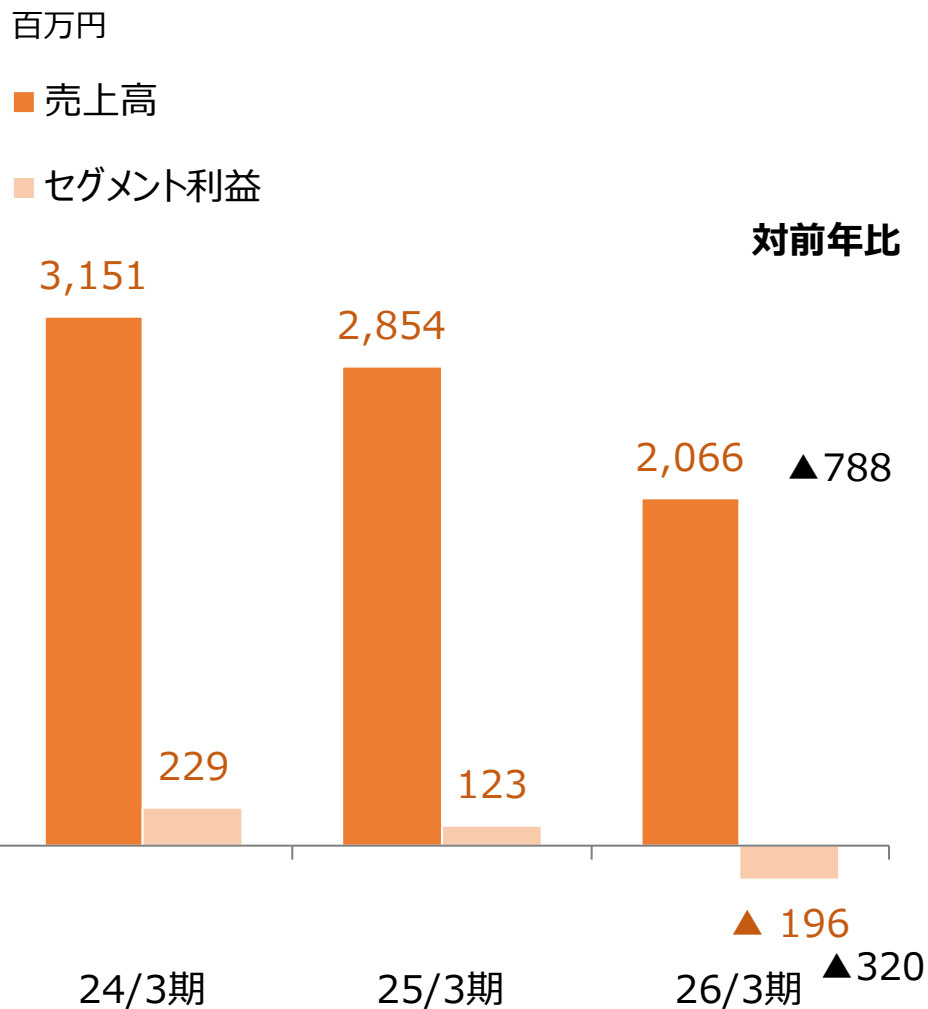
■ 増減要因

- 2025年3月期からの複数の大口繰越工事が当期中に完工し、追加工事代金の取り下げにより完工高が増加したこと等により前期比、増益となりました。



斜面对策工事（アンカー工）

- ▶ 橋梁伸縮装置事業は、売上高2,066百万円（前年比▲788百万円）、のれん162百万円償却後のセグメント利益は▲196百万円（前期比▲320百万円）の減収減益となりました。



■ 増減要因

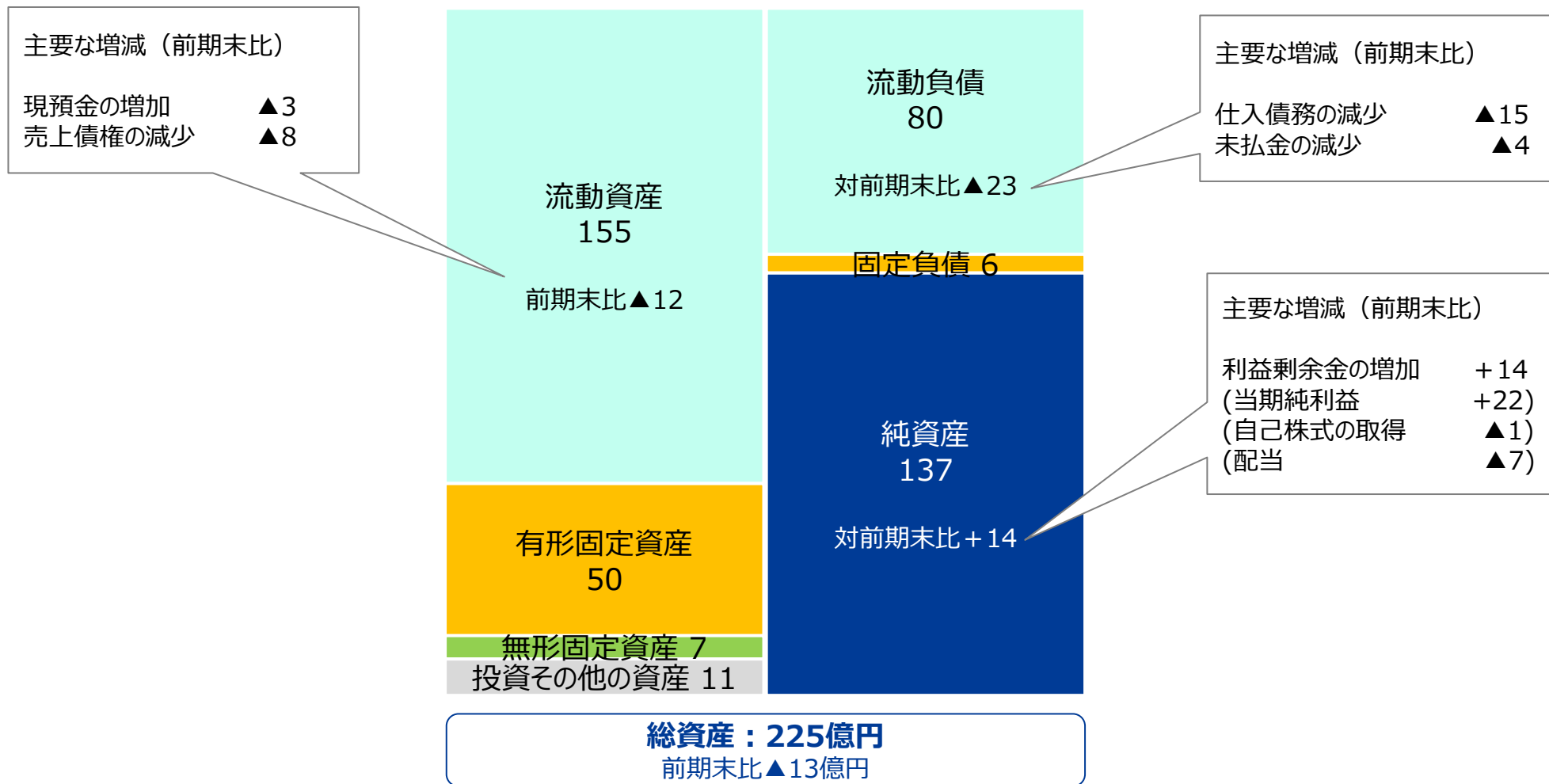
- ここ数年続いておりました大口の特需が2025年3月末で終了し、また当期は、大阪・関西万博の開催により道路交通規制が制限されたため、大阪周辺の自治体等の発注量も減少し、前期比減収、減益となりました。
なお、2026年3月末現在で、のれん償却前のセグメント利益合計額は1,516百万円、のれん償却額の合計は1,035百万円となっております。



橋梁上部工工事（ダブルフィンガースーパージョイント）

- ▶ 貸借対照表の総資産は、前期末と比較し▲13億円減少しています。
- ▶ 手形による支払廃止や電子記録債権・債務のサイト短縮により、資産サイドでは売上債権等の流動資産、負債・純資産サイドでは仕入債務等の流動負債の減少幅が大きくなっています。

2026年3月末 億円

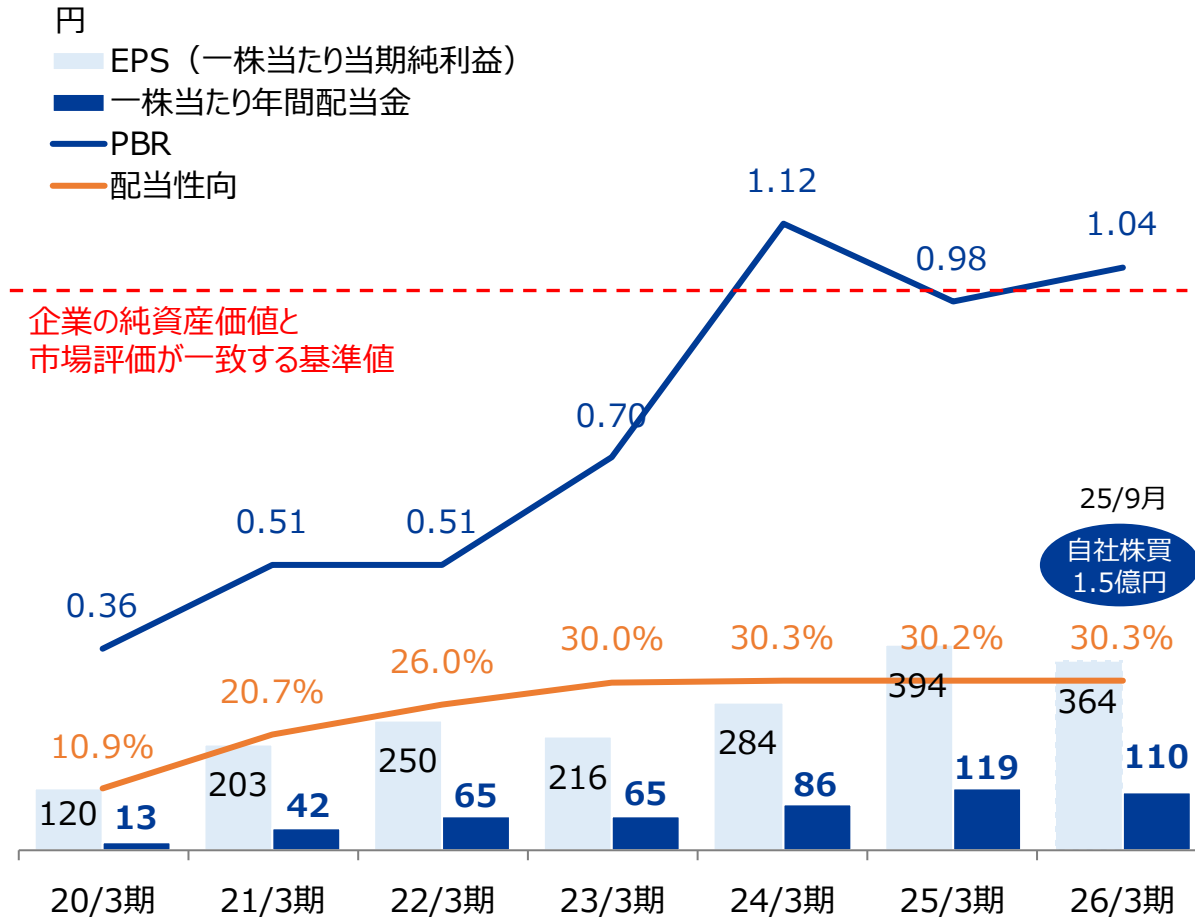


- ▶ 26/3期は、通期で営業キャッシュフロー1,611百万円を獲得しました。
- ▶ 獲得した現預金を投資キャッシュフローとして742百万円、財務キャッシュフローとして1,249百万円支出、期末現預金残高は▲379百万円減少しました。

26/3期（2025年4月～2026年3月）		百万円
営業CF +1,611		
税金等調整前当期利益	+3,515	
減価償却費	+758	
売上債権の減少額	+877	
たな卸資産の増加額	+97	
仕入債務減少額	▲1,542	
法人税等の支払額	▲1,412	
その他	▲683	
投資CF ▲742		
有形固定資産の取得による支出	▲724	
その他	▲17	
財務CF ▲1,249		
配当金の支払額	▲729	
自己株式の取得による支出	▲152	
有利子負債の返済による支出	▲314	
その他	▲52	
現預金の減少額 ▲379		

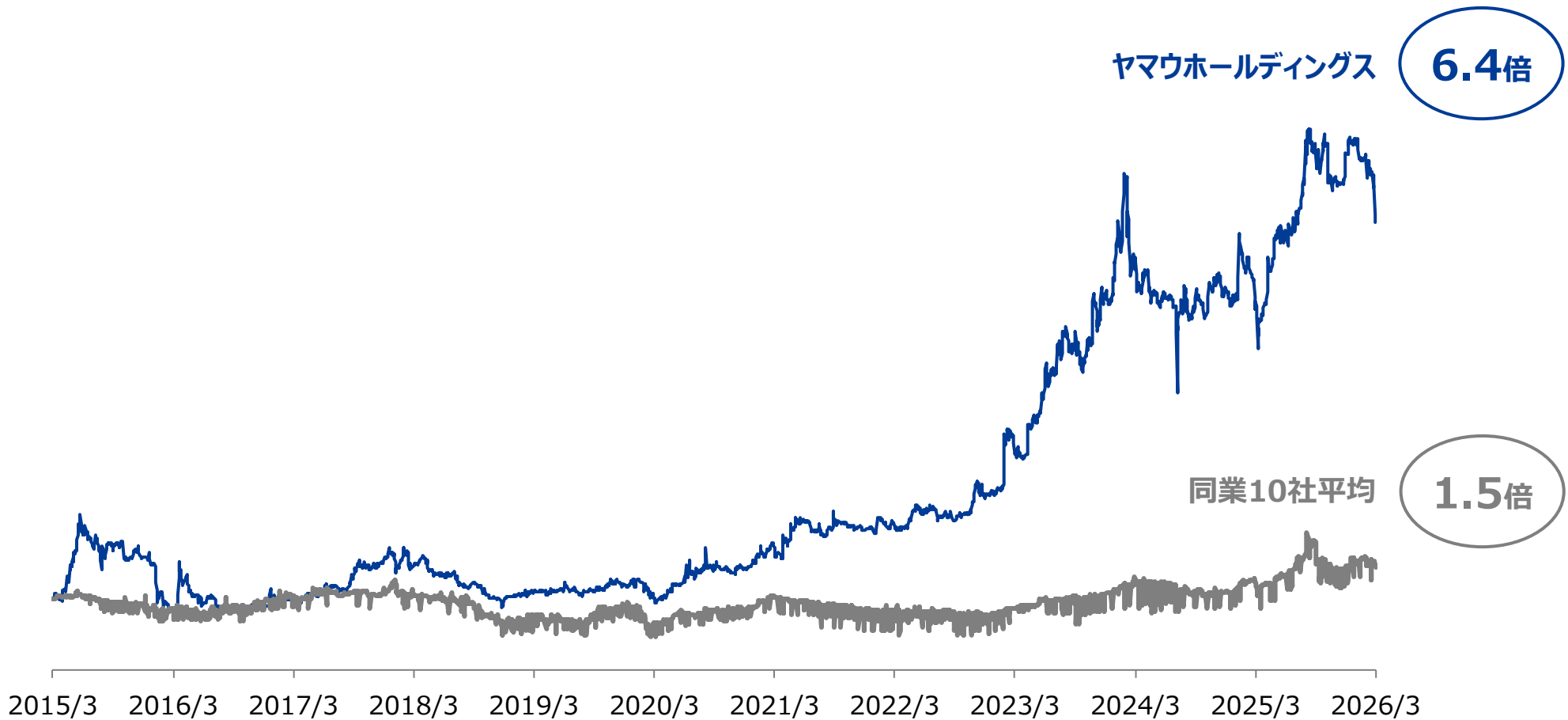
資本コストと株価を意識した経営の実現へ向けて

- ▶ 当社の**PBRは現在1倍程度**で推移しておりますが、収益力の強化を図るとともに、当社の取組みの内容を資本市場の皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。
- ▶ また当社は、**連結配当性向30%程度**を目安に業績に応じた配当を実施することを基本方針としておりますが、当期は配当に加え、資本効率の向上等を目的として**1.5億円の自己株式取得**を実行致しました。



取組区分	内容
(1) 収益力強化	<ul style="list-style-type: none"> 中計PlanC³における各施策への取組を推進
(2) 投下資本の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ROICを基準とした収益力強化と資産効率向上に資する投資判断の実施
(3) IR活動強化	<ul style="list-style-type: none"> 株主及び投資家との対話の量を高めるとともに、適切かつタイムリーな情報開示の実施
(4) 株主還元方針	<ul style="list-style-type: none"> 財務の健全性を前提とし、連結配当性向30%程度を目安に業績に応じた還元を実施する

- ▶ 当社の株価上昇率は、同業種平均を大きく上回っています。
- ▶ 将来目線に立ったグループの構造改革と成長戦略に取り組み、今後も更なる企業価値向上を目指して参ります。



注) 上記は、2015年3月31日の終値を1とした、2026年3月31日までの株価推移。

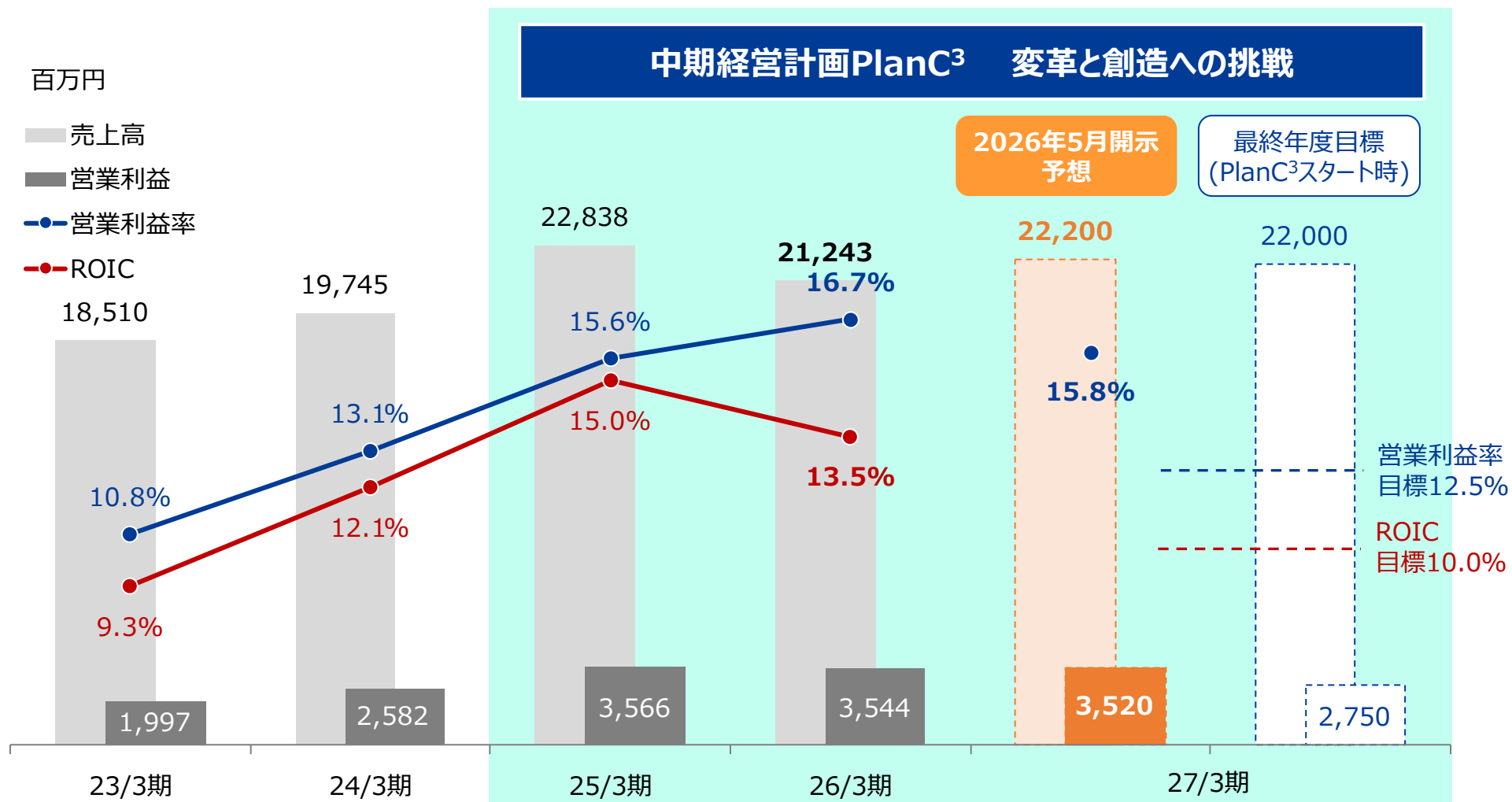


1. 決算概要

2. 中期経営計画の進捗状況



- 26/3期は、売上高21,243百万円、営業利益3,544百万円（同率16.7%）の業績で着地致しました。
- 中期経営計画最終年度である27/3期は、グループ各社で収益を意識した受注獲得や販売価格への価格転嫁に努め、目標を上回る業績達成を目指して参ります。



中期経営計画（25年3月期～27年3月期）

変革と創造への挑戦

	取組区分	グループの取組方針
1 変革への挑戦	(1) 人的資本経営の実現に向けた土台作り	<ul style="list-style-type: none"> グループ人材基盤の可視化 人材成長への投資強化 労働市場におけるグループのプレゼンス向上
	(2) 人材不足の時代に合わせた体制転換	<ul style="list-style-type: none"> 製造・施工プロセスの機械化・省人化への挑戦 アナログ的定型業務の効率化推進 多様な人材を活かせる環境整備
	(3) グループ経営推進のための体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ホールディングスの戦略企画機能強化 グループ経営会議の更なる活性化
2 創造への挑戦	(1) 既存事業の底固めと更なる強化	<ul style="list-style-type: none"> 重点注力分野の深耕
	(2) 新たな成長機会獲得への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 新たな成長機会獲得に向けた種蒔き 戦略的技術開発の推進
3 経営の サステナビリティ	サステナビリティ経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ経営基盤の整備と運用 グループガバナンスの強化とコンプライアンス意識の更なる向上

人材成長への投資強化

グループ合同階層別研修の実施



新卒2～3年目研修



若手研修



中堅研修



管理職研修

グループ合同の人材育成として、階層別研修を実施、人材基盤の強化を行っています。

技術系人材の社外研修会等への派遣（プレキャスト事業、水門・堰事業事業）

技術系社員を社外研修会や技術競技大会等へ派遣、技術系人材の成長を積極的にサポートしています。



RC梁破壊実験研修会
(ヤマウ)



コンクリート技術研修会
(ヤマウ)

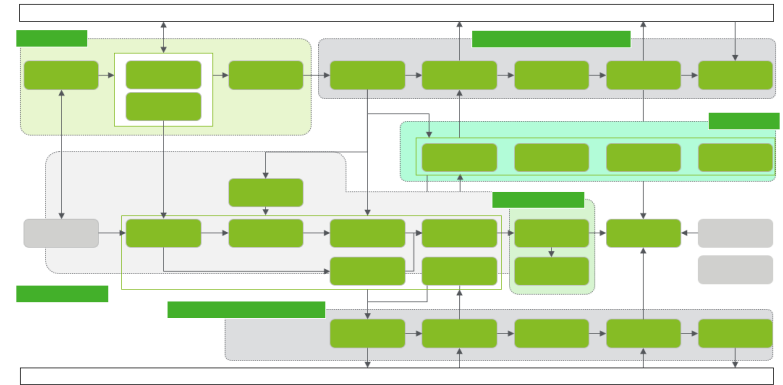


熊本県溶接技術競技大会
(開成工業)

アナログ的定型業務の効率化推進

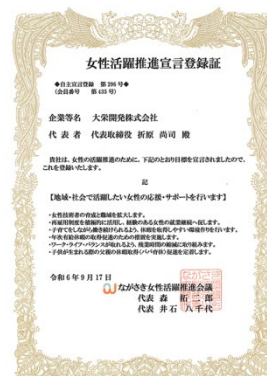
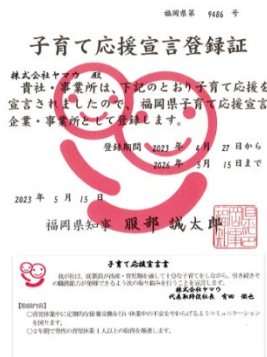
基幹システムの更改および定型業務の標準化（プレキャスト事業）

ヤマウでは、基幹システムの更改を含む業務改革を実行中。
これにより更なる生産性向上と働き方改革の実現を推進致します。



多様な人材を活かせる環境整備

就業環境に関する各種認定の取得



子育て・介護・健康経営・女性活躍など、就業環境の改善を各社で推進しています。

子育て応援宣言登録証
(ヤマウ)

介護応援宣言登録証
(ヤマウ)

健康経営優良法人認定証
(開成工業)

女性活躍推進宣言登録証
(大栄開発)

既存事業の底固めと更なる強化

新たな補強補修分野への参画 (プレキャスト事業)

ヤマウでは、補強補修分野の受注獲得に注力、大型トンネルの補修工事を受注しました。



犬鳴トンネル補修工事

重点強化エリアの深耕 (橋梁伸縮装置販売事業)

中外道路では、地盤である関西地域に加えて、東京、名古屋、九州を重点強化エリアに指定、各地域での受注獲得に注力しています。



熊本高森線道路補修工事

製品展示会への出展 (プレキャスト事業、水門・堰事業)

ヤマウと開成工業は、イベントへの出展により注力する事業領域の新製品・技術をアピールしています。



第19回ミリタリーエンジニアテクノフェアへの出展 (ヤマウ)



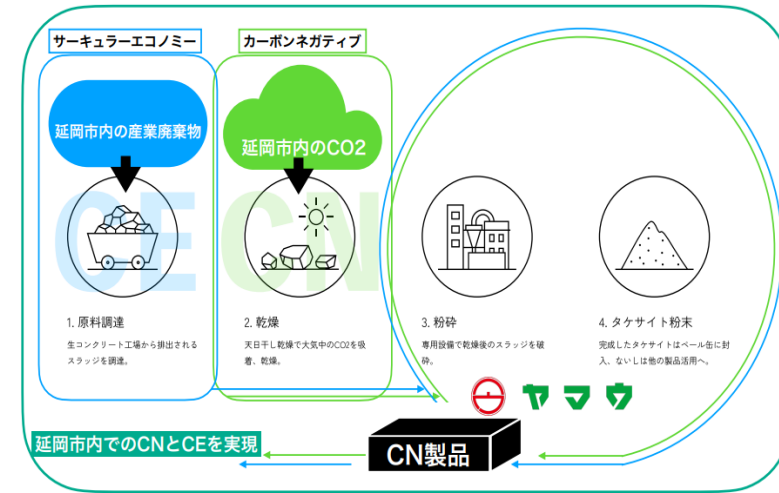
先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本 2025への出展 (ヤマウ、開成工業)

新たな成長機会獲得への挑戦

脱炭素社会の実現へ向け、宮崎県延岡市及びタケ・サイトと連携協定締結（プレキャスト事業）

ヤマウは、宮崎県延岡市及びタケ・サイト社と大気中のCO2を直接捕集する技術を活用した実証実験の連携協定を2025年1月22日に締結しました。

生コン工場で発生する産業廃棄物「コンクリートスラッジ」にCO2を吸着させ、再生炭酸カルシウムを生成、ヤマウは再生炭酸カルシウムを使用したコンクリート製品の開発・製造・供給に取り組み、脱炭素社会の実現に貢献します。



低炭素型コンクリートCNEconの販売拡大（プレキャスト事業）

CNEcon 適用例

CVハーフS型(環境保全積みブロック)



CVハーフS型は、「美しい山河を守る災害復旧基本方針」の護岸ブロックに関する留意事項に配慮した環境保全積み(張り)ブロックです。
※表層部分と基礎部分の置換率は異なります。

ヤマウは、高炉スラグ微粉末をセメントの代替材として55%～70%置換した低炭素型コンクリートCNEconを製造しております。

同製品は、国土交通省の建設現場における脱炭素化に向けた取り組みである「低炭素型コンクリートブロック活用工事」に適応したブロックであり、今後も販売拡大に努めて参ります。

グループガバナンスの強化

グループ共通の会議体運営



経営方針発表会、経営会議、戦略会議など、グループ共通の会議体を開催・運営することで、グループが目指す方向性を全社へ浸透、ガバナンスの強化を図っています。

コンプライアンス意識の更なる向上

役員向けコンプライアンス研修の実施

弁護士によるグループ役員向けコンプライアンス研修を実施、グループ全社としてコンプライアンス意識の向上に努めております。



地域社会への貢献

第27回YOSAKOIさせぼ祭りへの協賛（地質調査・土木事業）



長崎県佐世保市に本社を置く大栄開発は、地域の祭りに協賛、地域振興へ積極的に参画しています。

社員参加による演舞

子ども食堂活動への協力（水門・堰事業）

開成工業は、子ども食堂活動へ協力、社会課題の解決に貢献しています。



今日を支え、明日を創る。



YAMAU
HOLDINGS

本資料に関するお問い合わせ先
ヤマウホールディングス経営管理部
TEL : 092-872-3301